



2019年5月20日発行（季刊）

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社
〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル501
TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202
E-mail npo@hitomachi.org
URL : <http://www.hitomachi.org>
郵便振替口座 00170-6-410791 NPO 法人市民シンクタンクひと・まち社

地域づくりは市民の手で ～植樹紀行～

認定 NPO 法人市民シンクタンクひと・まち社 代表理事 工藤 春代

5月の初めに縁あって岩手県の野田村に桜の植樹に出かけてきました。野田村村長の同窓生が始めた植樹活動は毎年行われ、今年で6年目になります。2013年に初めて行ったときはまだ家屋の基礎が残っており、津波の後が生々しい状況でした。今では、かつて住宅が立ち並んでいた海岸沿いは盛土され、広いきれいな広場になっています。広場の先にはコンクリートの防潮堤も出来上がり、盛土された土地に桜の苗木を植えています。今年はわずかにかわいい花をつけていました。

村のハード面での復興目標に達するにはあと2年程度かかるとのこと。震災後、福島原発事故の異常さと被害の大きさから、野田村の津波被害への支援は後回しになったため、村長は村民の生活を再建するために国へ何度も足を運んで掛け合いました。そして、村民の協力により何とかここまで進めることができたそうです。何から手を付けてよいのか途方に暮れることもあり、がれきの片づけから行方不明の家族を探す手立て、新しい施設の建設まで様々な課題がありました。村長自身も自宅を津波に流された被災者だったため、村民の共感を得られたことが大きかったようです。

毎年、野田村を訪れるたびに村長から話を伺い、気づかされることはたくさんあります。昔からあった土で踏み固められた防潮堤のほうがコンクリートの防潮堤よりも強く、今回の津波でも壊れなかったとのこと。新しいコンクリートの防潮堤は18メートルもあり、これまでよりも10メートルも高いそうです。私は閉塞感があったのではないかと感じていましたが、防風林の内側に住んでいた人はもともと海が見えない生活だったので、海が見えると怖いと感じ、早く防潮堤が完成することを願っているとのこと。高台に住んでいた人は海が見

える生活だったため、同じように海が見える場所に家を建てることを望んでいることなど、同じ地域によってもちょっとした環境の違いで、思いが違うものなのだと思います。

また、被災した経験から、熊本の震災後、野田村が行政支援に入る際、熊本県出身の村民とのつながりを活かして現地の情報を集め、必要な物資を届けたとのこと。野田村に届いた救援物資の中には活用できないものもあったため、必要な救援物資を必要としている人のところに確実に届ける手立てを考えたのです。人とのつながりを通して、道路事情や必要な救援物資の現地情報を把握し、届ける相手を特定して送ったのでした。

届ける手段は、大手宅配業者の大型トラックでは土砂崩れなどで道がふさがれて通れないため、小回りの利く郵便事業会社の軽自動車で運んだそうです。熊本に向かう救援物資を積んだ軽自動車はどこから集めたのかと思うほどの大変な数であり、その費用は野田村の負担でした。国からは何の支援もないけれど、被災した野田村に支援の手を差し伸べてくれた多くの人たちのために、支援体制を整えたそうです。

お話を伺い、人とのつながりが新しい道を見つけてくれるのだということ、自分たちのまちをつくるのは自分たちなのだということを実感しました。地域のことは地域に住む人たちがよく知っていること、それを聞き出しまちづくりに活かしていくことが重要なのだと思いました。

